

# あさくみの促戸

～現地説明会特別号～

令和6年11月30日発行

## 朝酌矢田Ⅱ遺跡とその周辺

島根県埋蔵文化財調査センターでは、大橋川河川改修事業に伴う発掘調査を行っています。今年度は、松江市朝酌町に所在する朝酌矢田Ⅱ遺跡 K 区・L 区の発掘調査を行ったところ、K 区から弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓が発見されました。

朝酌矢田Ⅱ遺跡は、令和2年度のC区の調査で『出雲国風土記』に登場する「朝酌渡」と考えられる古代の石敷き護岸が発見され、注目を浴びました。また、朝酌矢田Ⅱ遺跡とその周辺には、古代の道路や集落、古墳などが確認されていることから、当地が繁栄していたことが明らかとなっています。

魚見塚遺跡・朝酌菖蒲谷遺跡（平成28年度松江市調査）  
『出雲国風土記』記載の「枉北道」と考えられる奈良時代の道路や集落。

魚見塚古墳  
古墳時代後期の大型前方後円墳（全長62m）

D区（令和2年度調査）  
古代の礎敷遺構の一部を検出。

E区（令和4年度調査）  
古墳時代の集落のほかに、弥生時代の配石木棺墓やガラス玉を発見。

K区（今年度調査区）

A・B区（令和元年度調査）  
古墳時代後期後半の方墳の周溝を2基検出した。

F区（令和5年度調査）  
古代末～中世初頭の集落を発見。

C区（令和2年度調査）  
古代の石敷き遺構を検出した。  
『出雲国風土記』に記載されている古代の渡し場「朝酌渡」の一部と考えられる。

L区（今年度調査区）  
古墳時代～近世の遺物が出土。



## 今年度の調査成果

### 1. 四隅突出型墳丘墓ってなんだろう？

四隅突出型墳丘墓（以下、「四隅」と記載）とは、弥生時代の中頃～終わりにかけて造られた有力者のお墓です。四角い墳丘の角が張り出した独特の形をしており、墳丘には石が貼り付けてあります。

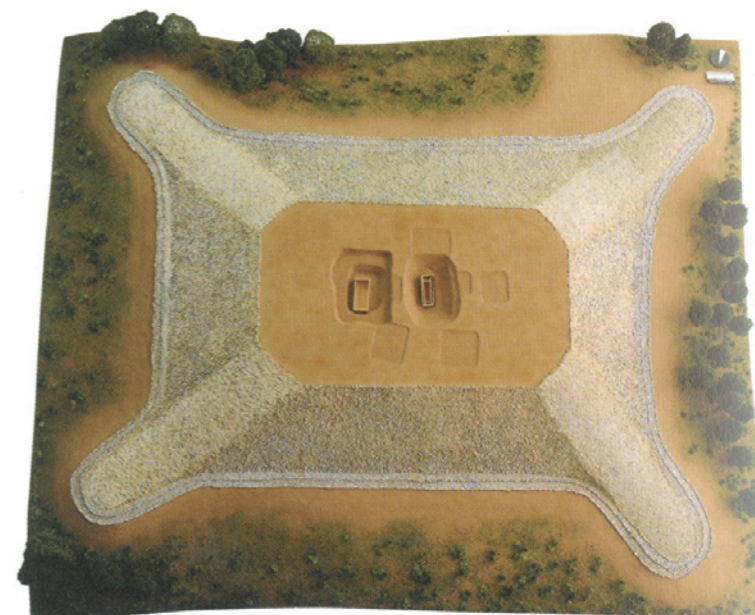
四隅は中国山地から北陸地方まで分布していますが、中でも島根県の東部で多く造られました。中でも最も多くの四隅が見つかったのが松江市で、これまでに可能性があるものも含めて17基あることがわかっています。松江市内に所在する四隅は一辺が15m未満の小型のものが多いことも特徴で、弥生時代の終わり頃に造られたようです。

当遺跡で見つかった四隅は突出部を含めた一辺が10m程度であったと推測されます。上記の松江市内の四隅と比較的近い規模であることから、造られた時期もこれらに近いのではないかと考えられます。

### 2. 調査成果の意義

本遺跡の周辺には大型古墳や集落跡、古代道跡などが所在しています。そして、過去に調査を行った本遺跡のC区では奈良時代の渡し場（朝酌渡）と考えられる石敷き護岸が見つかるなど、水陸の交通の要衝でした。また、K区に隣接したE区では、弥生時代の配石木棺墓や弥生時代～古墳時代の建物跡などが見つかり、長い期間にわたり人々の営みがあったこともわかっています。今回見つかった四隅が渡し場や一帯を見下ろせる場所にあることから、古代に渡し場ができる前から重要な場所（交通の要衝）だったのではないのでしょうか。

四隅に埋葬された人物は、大橋川を利用した交通を掌握することができた人物だったのかもしれない。



四隅突出型墳丘墓復元模型（島根県出雲市 西谷墳墓群）



四隅突出型墳丘墓と周辺の様子

## 編集・発行

【島根県教育庁埋蔵文化財調査センター】

〒690-0131 松江市打出町33

TEL：0852-36-8608

FAX：0852-36-8025

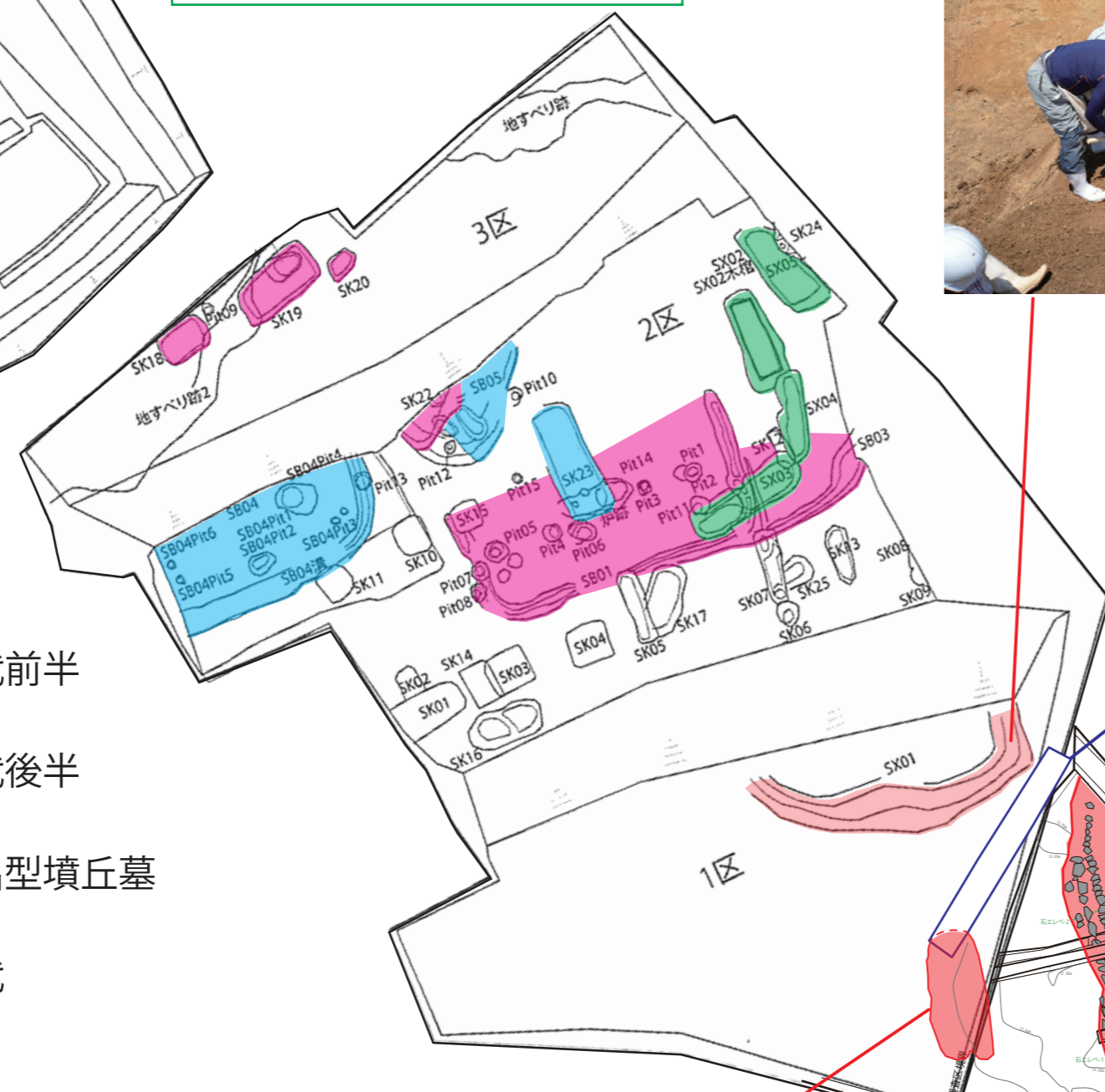
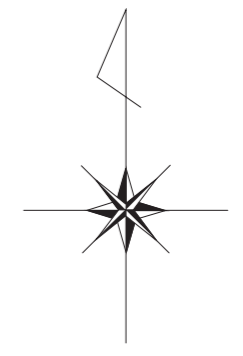
E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp

HP：https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/





E区 (令和4年度調査)

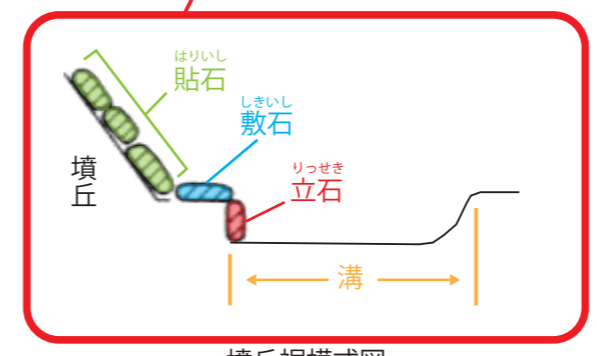
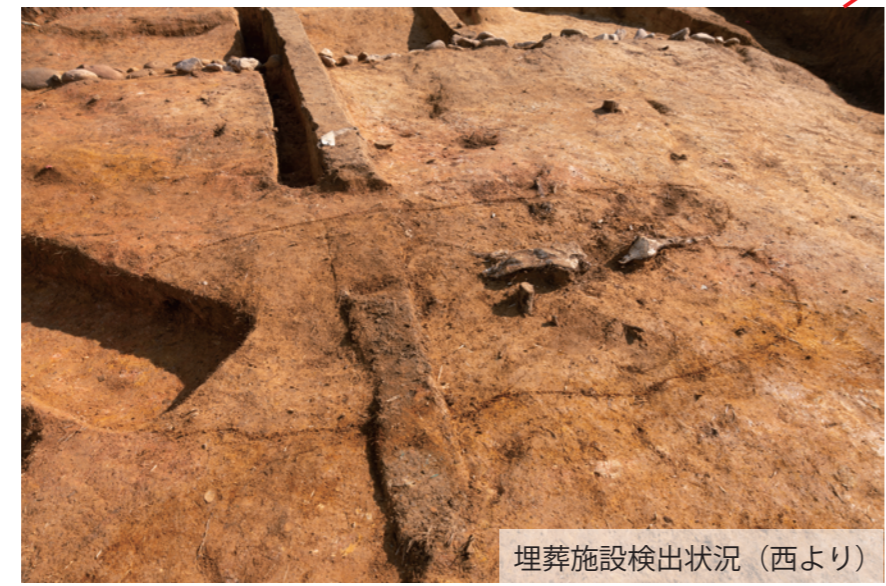
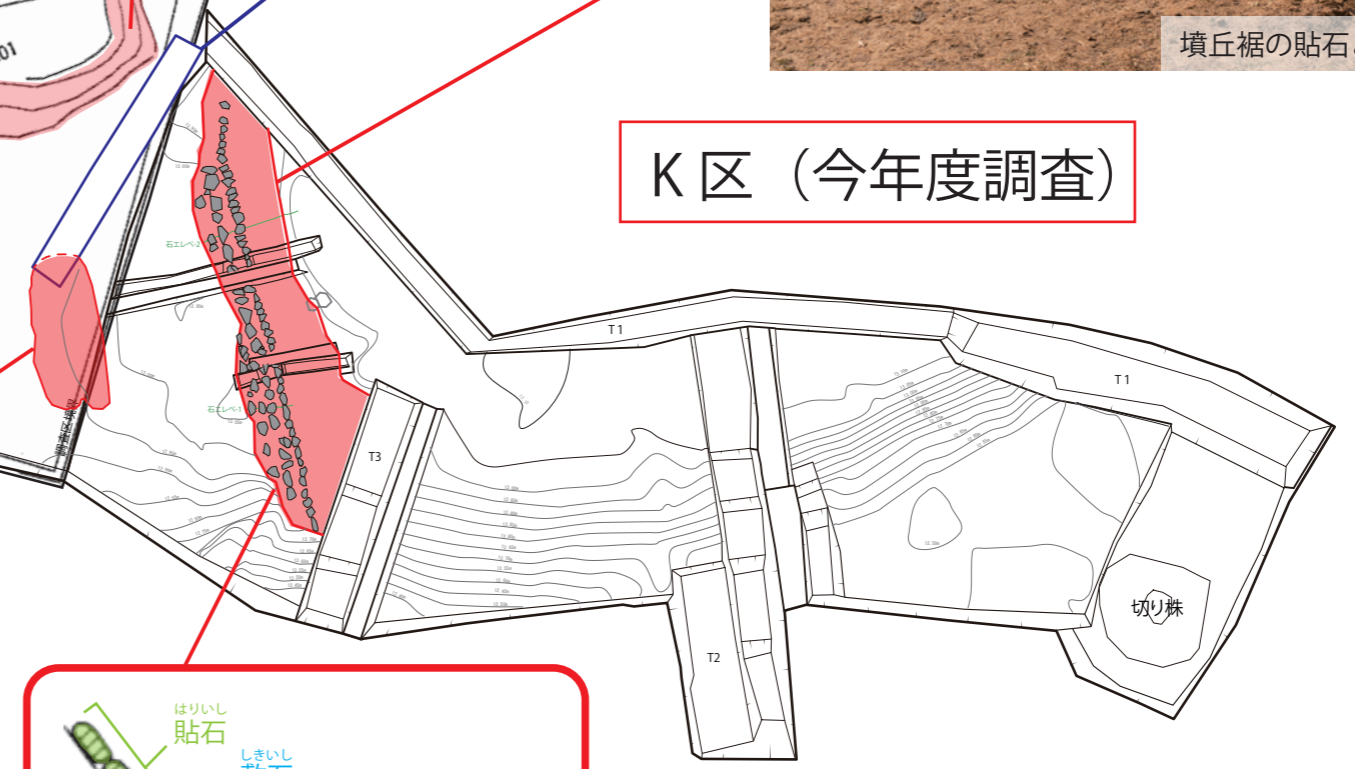


- 弥生時代前半
- 弥生時代後半
- 四隅突出型墳丘墓
- 古墳時代

試掘トレンチ



K区 (今年度調査)



墳丘裾模式図

